

はねっと 7

仙台市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

“ぱれっと”には、仙台市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



一歩踏み出す気持ち芽生える「ワクワクビト」

笑いで伝える 東北弁の魅力

東方落語プロジェクト

こんのや

今野家 ちよすなさん (25)

温かみのある東北弁で落語を語り、客席の笑いを誘うのは、東方落語プロジェクトの落語家、今野家ちよすなさんです。「ちよすな」は、東北弁で「かまうな・いじるな」の意味。17歳で入門し、門弟最年少であったことから、「ちよっかい出さずに見守ってほしい」という師匠の親心が込められています。現在は、接客の仕事で生計を立てながら、週に1度、師匠のもとに通い腕を磨いています。成果を披露する場所は、寄席、病院、高齢者施設など。「夢は、師匠のように地域に愛される落語家になること」と意気込みます。

落語の世界に飛び込んだきっかけは、母親に誘われて観に行った東方落語の記念公演でした。「東北弁はよく分からなかったけど、方言と落語の組み合わせが面白かった」と目を輝かせます。幼いころから人前に出ることが好きだったこともあり、その場ですぐに「やってみよう」と弟子入りしました。稽古中に飛び交うのは、宮城や岩手など様々な地域出身の師匠らが話す東北弁。東北弁を聞き取ることも話すこともできなかったちよすなさんにとって、それらはまるで外国語のようでした。特に、捨てるは「なげる」、かわいいは「めんこい」、ダメは「わがね」など、標準語とは全く異なる言葉の数々に驚かされました。自分で「東北弁辞典」を作ったり、イントネーションを聞いて真似たりし



ながら、少しずつ身に付けていきました。高座に出るうちに芽生えたのは、「地域の魅力のひとつとして、その土地で使われてきた方言を伝えていきたい」という思い。今日も落語にのせて、東北弁の魅力を伝えます。

東方落語プロジェクト

1997年5月、こんのや あずま今野家東さんが立ち上げた東北弁で落語を語る団体です。現在、メンバーは6人。今年で25周年を迎えました。東北弁の素晴らしさを幅広い層に届けること、楽しさの中で東北弁に関心を持ってもらうことを目的として活動しています。学校、敬老会、施設などでの出張寄席も行っています。お問い合わせください。

TEL 070-5622-2552



▲HP



市民活動団体を紹介「市民活動突撃レポート！」

その土地に生きてきた人たちの文化を伝え残したい

みやぎ在来作物研究会

「消滅の危機にある在来作物を守りたい」と使命感に燃えるのは、みやぎ在来作物研究会（以下、研究会）です。研究会は、宮城県に残る地域に根差した作物や種を調査し、伝える活動をしています。在来作物とは、その土地で世代を越えて栽培されてきた野菜、果樹、穀類などの作物です。栽培者自身が種苗を管理し、同じ農法で作り続けることで受け継がれています。宮城県には、茶目ねぎ（仙台曲がりねぎの元祖）や、気仙沼の大島かぶなど約30種類の在来作物が現存しています。「生きた文化財」と言われる一方、耐病性が低く収穫量が不安定で、形も揃わないことから生産、流通、販売には不向きです。高度経済成長期以降、経済優先の時流により栽培する生産者は減少。在来作物は地域から姿を消しつつあります。研究会は、県による在来作物のデータや地域の人たちからの情報を頼りに生産者のもとに通い、作物の歴史や美味しさ、農法、食文化などを調査しています。調べた情報をもとに市民向けの勉強会を開いたり、フリーペーパーに編集したりして発信しています。活動のきっかけは、山形県の在来作物伝承をテーマにしたドキュメンタリー映画でした。映画に感激した人たちが仙台でも上映しよう

と、2013年に自主上映委員会を発足。その後、「宮城県にも在来作物はあるのか」という好奇心や、「あるなら残していきたい」という使命感から委員会の有志数人で研究会を立ち上げました。代表の川島洋子さんは「お盆の頃には長なすの漬物が食卓に上がり、お祝い事にはかぶの蒸かしご飯を囲むなど、在来作物は地域特有の食文化と深く関わっています。在来作物を伝承するということは、その土地の文化や歴史、そこに生きてきた人たちの歴史を伝えること」と、活動の意義を話します。

活動で直面するのは、生産者の高齢化や家族構成の変化によって家族内伝承が途絶えつつあることなどの課題です。「消えていくことを止めるのは難しいかもしれないが、在来作物やそれを守ってきた人たちを知り、伝えていきたい」と、地道な活動を続けます。



▲宮城県「鬼首菜」の調査にて

みやぎ在来作物研究会

宮城県の在来作物に関する情報をお寄せください。

Mail miyagizairai@gmail.com



▲Facebook



活動を支える、人、モノ、こと「募集して」

子ども食堂でボランティア募集 子どもたちと遊んだり、勉強したりしませんか

仙台市宮城野区の幸町を拠点に「よりみち～のんびり食堂」を開く「よりみちの会」では、ボランティアを募集しています。食堂に訪れる子どもたちや地域の人たちと食事を囲み、工作やボードゲームをして遊んだり、宿題を手伝ったりもします。現在、場を切り盛りするボランティアは、高校生から70代まで世代も立場も様々。「子どもが好きだから」「いろんな人と関わって自信をつけたいから」など参加動機も十人十色です。代表の植村暢子さんは「学校や住んでいる場所など普段のコミュニティに関係なく、子どもたちが新しい人間関係をつくれる交流の場にしたい」と話します。



▲ボランティア活動初心者も歓迎

日時：毎月第4日曜日10:00～14:00

場所：福沢市民センター、幸町市民センターなど

問合せ:kagayakinobuko@gmail.com（植村）

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 7月13日（水）、27日（水）

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日（祝日の場合は翌日木曜日）年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター

(指定管理者：特定非営利活動法人
せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2022年7月1日

デザイン PEACE Inc.

[Twitter]

@SCSC4CA

[YouTube]

サポセンちゃんねる

